

『発達障がい学生の特性を生かした社会参入
～修学支援から就職支援へのリンケージ～』

社会参入を支える
合理的配慮の探求プロセス

- 富山大学保健管理センター 准教授
- 学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室長

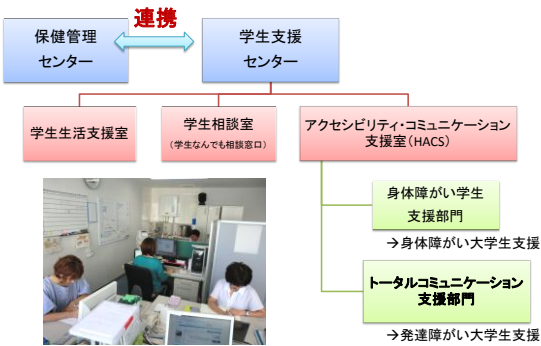
西村 優紀美

高岡キャンパス
杉谷キャンパス
五福キャンパス

■学 生: 9,281人
■職 員: 約3,000人
■学 部:
8学部(3キャンパス:杉谷・五福・高岡)
■支援の基盤: 学生支援センター
アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

【スタッフ】
斎藤 清二 (保健管理センター長・医師)
西村 優紀美(室長・保健管理センター准教授)
橘谷 文智 (学生支援センター特命講師)
水野 薫 (相談員&コーディネーター)
日下部 貴史 (相談員&コーディネーター)
松原 美砂 (相談員&コーディネーター)

富山大学における支援システムのコア組織



アクセシビリティ・コミュニケーション支援室が支援している
在籍障がい学生数(2013年12月27日現在)

	支援している学生数
視覚障がい	2
聴覚障がい	0
肢体不自由	5
発達障がい(ASD) ()は発達障がいの医学的診断を受けている学生数	20(5)
発達障がい(ASD・ADHD複合) ()は発達障がいの医学的診断を受けている学生数	8(3*) *ASDの診断
発達障がい(ADHD) ()は発達障がいの医学的診断を受けている学生数	16(2)
発達障がい(LD)	2
その他(病弱および精神障がい等)	6
障がい学生合計	59

ASD : 自閉症スペクトラム
(高機能自閉症・アスペルガー症候群)
ADHD: 注意欠如・多動性障害
LD : 学習障害

発達障がい学生: 46名
身体障がい学生: 7名
その他の障がい学生: 6名
合計: 59名

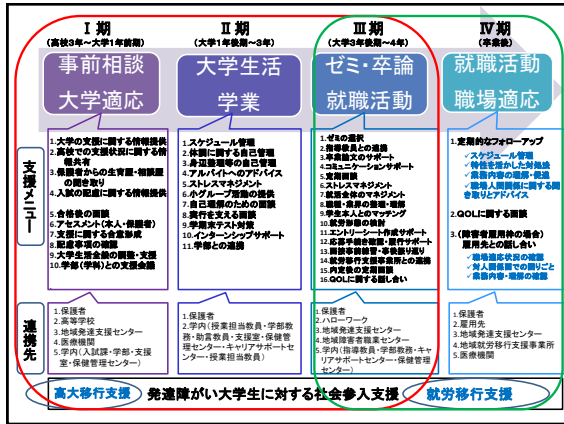
「発達障がいのある学生への支援」における
高等教育機関のミッション

1. 「発達障がいのある大学生が、大学や社会の財産として広く認知され、彼女/彼らの持つ豊かな才能が社会全体の発展に寄与する」というビジョンを共有する。
2. 本人およびその家族、支援者などの複数の当事者が、毎日刻々と体験することの語りや、語る/聴く、書く/読むことを通じて、最大限に尊重するところから支援を開始する。
3. 彼らが日々体験している「生きにくさ」を軽減し、彼らのもつ能力、個性が開花できるような環境へのアクセスを保証することを目指す。

斎藤清二(2013):第51回全国保健管理研究会
特別セッション3「大学における障害学生支援について」より抜粋

ナラティブ・アセスメント(西村,2010)
～対話から支援方針を導き出す～

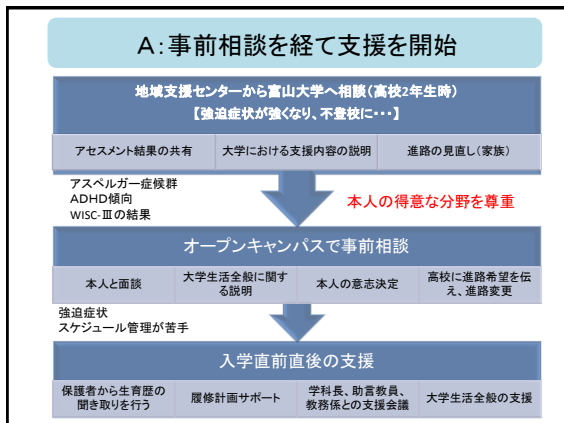
- 発達障がい学生支援におけるアセスメント
 - 本人の「今」の支援ニーズに対応できる
 - 本人の表出能力・対話能力を活用できる
 - 本人も納得できる説明物語を共同構成することができる
- ナラティブ・アセスメントとは
 - 発達障がい学生支援における連続的な判断プロセス(見立て・支援方針・合理的配慮の探求・支援効果の評価等)を物語的対話を通じて行うための方法論



I 期(高校3年～大学1年前期)

事前相談	大学適応
<ul style="list-style-type: none"> ▶大学の支援に関する情報提供 ▶高校での支援状況に関する情報共有 ▶保護者からの生育歴・相談歴の聞き取り ▶入試の配慮に関する情報提供 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 合格後の面接 2. アセスメント(本人・保護者) 3. 支援に関する合意形成 4. 配慮事項の確認 5. 大学生生活全般の調整・支援 <ul style="list-style-type: none"> ✓オリエンテーションの内容確認 ✓履修計画・登録 ✓大学構内の案内 6. 学部(学科)との支援会議

【連携先※】
保護者、高校、地域発達支援センター、医療機関、学内(入試グループ・学部・保健管理センター)
※必要に応じて連携する



Aさん: ナラティブ・アセスメント

学生の語り

- ▶高校の時は、夜更かしするようになり、生活リズムが乱れがちになりました。
- ▶持ち物を置き忘れることがよくあり、スケジュールの管理、整理整頓は苦手です。
- ▶友達と話していても、ずれを感じることがあります。フツーンにしているの面白と言われる、笑いを取ろうとしても全然ウケない。
- ▶なにかにハマると、判断能力が落ちてくることがあります。特に、ストレスが高いとき強迫症状が出て困ります。

母親の語り

- ◆小学生の頃から強迫観念があり、神経質なところがありました。
- ◆調子が悪くなるタイミングがわからず、いつの間にか動けない状態になっていることがありました。
- ◆思いついたら、すぐ行動してしまいがちでした。
- ◆相手や場の状況を察知するのが苦手で、相手を怒らせてしまうことがありました。気になったところは、すぐに質問してしまい、「質問は後で!」と、ストップをかけられることがよくありました。

Aさんの変化

- 強迫観念が強まるという理由で、手帳の利用を拒む。
- 時間管理ができず遅刻をしたり、課題をこなせなくなる。
- 気になることがあると落ち着かず、課題に取り組めない。

↓

- 手帳やメモを使ってスケジュールを管理し、優先順位を決めて、支援者に確認するようになった。
- 落ち着かなくなってきたら、自分なりの対処法を見つけ、勉強に集中できないという状態は回避できている。
- 提出物が間に合わなかったり、遅刻をしたときには、自分で担当の先生に交渉に行き、対処している。

留年することなく4年生になり、卒論を完成。
入学時からやりたかった研究ができ、サークルで仲間とのコミュニケーションを楽しんでいる。

第 I 期における支援のポイント

<受験生>

- ▶ 大学生生活のイメージを持ち、自分の将来像を描きつつ、受験期を過ごす。
- ▶ 得意な分野や強みを生かす進路選択をする。

<入学決定後>

- ▶ 支援に関する合意形成。
- ▶ 支援者は面談や行動観察など、あらゆる場面を通じて、学生の特性に関するアセスメントを行い、支援ニーズをつかみ、支援内容・支援方法を連続的に探究していく。

Ⅱ期(大学1年後期～3年)

大学生活

1. スケジュール管理
2. 体調に関する管理
3. 身辺整理等の管理
4. アルバイトへのアドバイス
5. ストレスマネジメント
6. 小グループ活動の提供
7. 自己理解のための面談
 - ✓特性認識
 - ✓対処法
 - ✓自分の強みと弱みを知るための対話
 - ✓社会的対人関係・コミュニケーションに関する話し合い、練習

学業

1. 実行を支える面談
 - ✓出席状況の確認
 - ✓毎回の授業の振り返り
 - ✓課題の確認
 - ✓スケジュール管理
2. 学期末テスト対策
 - ✓スケジュールの見直し
 - ✓優先順位の確認
 - ✓振り返りと事後対応
3. インターンシップサポート
4. 学部との連携
 - ✓実験実習の状況
 - ✓欠席への対応
 - ✓学生同士の関係調整

【連携先】保護者、学内(授業担当教員・学部教務・助言教員・保健管理センター)

Bさん: ナラティブ・アセスメント



学生の語り

- 教科書を持って行くのを忘れてしまったり、配布物が多すぎてどれがどの授業の資料かわからなくなってしまう。
- 先生の口頭での指示を記憶することができず、勘違いや聞き漏らしがあって、失敗することが多いです。
- 授業中に講義内容から別のことを連想してしまって、気がつくとも30分も経っていて、授業内容がわからないままの部分があります。
- 小さい時からいつもそうなので、どうすればよいかわかりません。
- 今までで一番頑張っているのに、留年してしまいました。

- ◆ 幼少期はとても多動で、じっとしていられず、よく迷子になる子でした。
- ◆ 小学校では感覚過敏があって、靴下やズックを履くのを嫌がりました。
- ◆ 友達を求めず、面倒見のよい子に世話をされるが多かったですね。
- ◆ 集中できなくて、注意散漫。人の名前が覚えられないと言っていました。
- ◆ 中・高校では、先生の話を聴いているのに、覚えられないと言ひ、問題集を買って勉強の補充をしていました。
- ◆ 大学の授業では、一番前の席で講義を聴いているのに単位が取れず、留年してしまいました。



母親の語り

支援内容



- ① 状況を整理する
- ② 特性による困りごとに焦点を当てる
- ③ 自分でできる工夫を考え、実行する
- ④ 合理的な配慮の探求
- ⑤ 配慮されたことを結果に繋げる

合理的配慮の提供

- ① 定期的な個別面談
- ② 母親面談
- ③ 学部との連携

- ① 配付物に日付・教員名を印刷
- ② ICレコーダーで授業の録音許可

【長期的なビジョン】

- ① 自身の特性を知る
- ② より良い対処法を選択する
- ③ 困ったときに助けを求める



15

Bさんの変化



自己肯定感

- ◎ 課題が完成し、単位を取得し進級できた。
- ◎ 手帳を活用してスケジュールを確認できるようになり、To Do リストを書き出したり、参考になる言葉をメモしたりするようになった。
- ◎ お気に入りのクリアファイルでプリントを整理するなど工夫するようになった。
- ◎ 一人暮らしを始め、自己管理のための優先順位をつけることを意識するようになった。
- ◎ ゆとりができて学習や趣味の時間が増え、精神的に落ち着き、体調が改善。
- ◎ うまくいかないのは自分がダメ人間だからと思っていたが、「工夫が足りなかったからだ」という認識になり、「なにか良い案があるはず」と考え、工夫するようになった。

16

Cさん: ナラティブ・アセスメント



学生の語り

- 小学校の頃から高校まで友達がなかなかできず、一人で過ごすことが多かったです。
- 大学2年生になって、実験実習が始まり、グループで活動していましたが、みんなとうまく話せない、グループの役に立つことができないという気持ちで苦しくなり、不安でいっぱいになりました。
- 自分だけ特別扱われることがとても嫌です。でも、不安で食欲もなくなり、夜も眠れないほどです。
- 実験で使った薬品が体内に入ってしまったのではないかと、自分は死んでしまうのではないかと恐怖に駆られました。

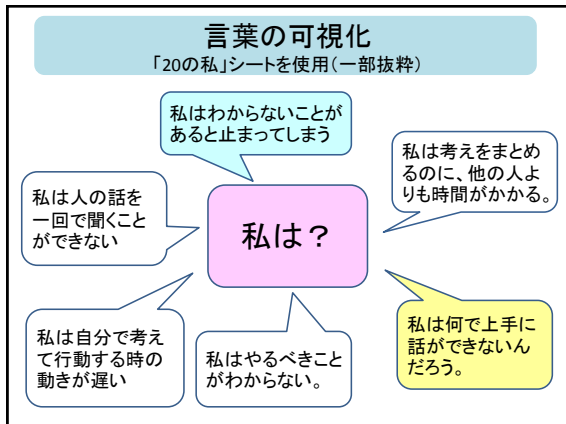


- パーソナルサポートでは限界、本人の合意のもと、担当教員に配慮願いを出す
- 毎回、グループのメンバーを変える
- Cさんの精神状態は安定し、不安が解消された

その後、定期的な面談を続ける 3年生後期: 研究室配属で不安定 「未知との遭遇は倒れそう・・・」



- 研究室配属とか、将来のことを考えるのがつらい。どうやって向き合えばいいんだろう・・・逃げちゃダメだとわかっている。自分がどのように向き合えばいいか教えてください！
- 今までの人生で良かったと思えることがなかった。未知との遭遇は倒れそう。私は良いことは気にしないで、悪いことばかり気にする・・・
- 不完全な自分に不安・・・できないことがある、やれない自分がいる。自分にできることなんて、他人にとって当たり前のこと・・・



物語の再構成

C: 私は何で上手に話ができないんだろう……思っているのに話をしようとするとき止まってしまう。瞬時に考えられない。小論文でストーリーが組み立てられないのと似ている。

支: そんな時、どうしていますか？

C: 話をする前に、「ちょっと、うまく言えないのですが……」と言ってから自分の考えを言うようにしている。

支: そう、そう！私も言うことがありますよ。

C: そう(笑顔)。

私は話すことが苦手だと思っています。苦手意識があるので、人と話すときは、前もって「ちょっとうまく言えないのですが……」と断ってから話し始めるようにしています。

新しい物語の生成 (一部抜粋)

☆私はわからないことがあると止まってしまいます

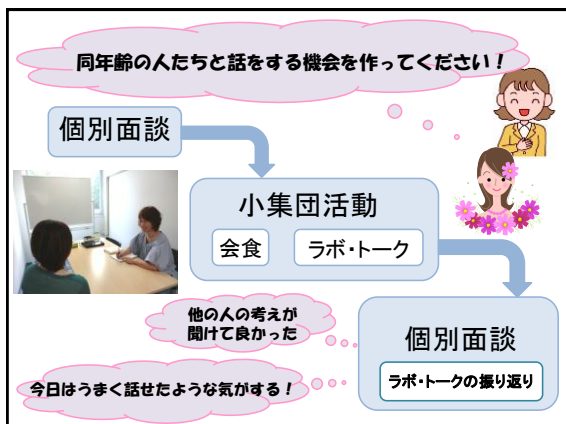
↓

- ✓ある時は、頭が真っ白になって何も思いつかない場合で、ある時はいろいろ考えすぎて頭の中が整理できない場合です。
- ✓こんな時の対処法が三つあります。一つは時間をかけて考えること。二つ目は誰かに話をして頭を整理したり解決の鍵を得るようにします。三つ目は気分を変えるために考えることをいったん中断させます。中断させて気分転換した後、もう一度考えるようにします。

個別面談で行われたこと

- 支援者はCさんの言葉を聴き、体験の周辺にあるCさんのさまざまな心の動きにスポットを当て、一緒に言葉に置き換える作業を行った。
- 強く印象に残っているネガティブな体験の周辺には、Cさんのたゆまない努力と挑戦が隠されていた。
- Cさんの言葉は、支援者との相互交流の中で、本人にとって、よりしっくりする自分自身の語りとしてまとめ上げられていった。

自分の良いところが見えるようになってきたのは、支援室で話し合ったおかげ。自分のことを振り返ったとき、ものごとにはプラス面とマイナス面が必ずあって、どちらも事実だけど、自分の良いところを見つけていくことが大切なんですね



小集団活動の意義(西村,2010)

- ① 安心して交流できる。
- ② さまざまな価値観が尊重される。
- ③ 活動の振り返りがあり、再び実行する機会がある。
- ④ 活動に役割交換あり、「発信する側—受信する側」の両方の視点を体験する機会がある。
- ⑤ さまざまな人とのコミュニケーションによって、自分自身のコミュニケーションの在り方に意識を向ける。

テーマの分類

1. 気軽に話せること

- 好きな○○
- 年末年始やGWのできごと
- 自分を動物にたとえると？
- 夢の話
- 春の富山と言えば…

2. 自分を振り返る必要があるもの

- 自由な時間は何をしますか？
- リフレッシュ法は？
- 大学での勉強法は？
- 言われてうれしかったひとこと
- 一番悔しかったことは？
- あなたの長所と短所は？

3. 自己開示する必要があるもの

- 心地よい場所
- 五感の中で一番大切なものは？
- 恥ずかしかった失敗談
- 自分を褒めてあげたいときは？
- 一番辛かった思い出は？

4. 判断を伴うもの

- 急いでいる時にアンケートを頼まれたら？
- 先輩から飲み会に誘われました。でも、バイトがあります。そんな時どうしますか？

5. 就活の面接で役に立つもの

- 自己PRを一言
- あなたにとって働くということとは？
- 10年後の自分は？

Cさん

自分にとって難しいと思ったり、嫌だと思ふことをやり遂げたとき

嫌な仕事を頑張ってやって無事やり遂げたとき

自分で自分を褒めたいときはどんな時ですか？

自分の作った料理やお手伝いがうまくいったとき

目覚まし時計が鳴る前に目が覚めたとき

サイコロを2個振って、両方6が出たとき

C) はい…えっと…自分で自分を褒めたい時は、自分にとって難しいと思ったり、嫌だと思ふことをやり遂げた時

支 いいですね

A) あー、納得できますね

C) 私、結構、嫌なことはやらないって性格なんで…

B) なるほど

C) 結構それでごまかしてきている…(笑い)…人生それでごまかしてきたところがあって、それでも、どうしても難しいことや、嫌なことをやらないといけないから、それは避けて通れないこともありますから、それを乗り越えたら…もう、褒めてあげたいと思いますね！

B) やらなきゃいけないって頑張るところが素晴らしいですね

Cさん



• Cさんは、これまで同年齢の人には話したことがない「気持ち」を思い切って言葉にした。

• 「嫌なことはやらない性格」と自己開示したうえで、「それでもやらなくてはいけない時があり、やれた時は自分を褒める」という表現は、隠しておきたい弱い部分を正直に伝えながら、ちょっと頑張った自分を、ほどよい満足感を持って表現している。

• 支援者との個別面談で語られたことを、同世代の仲間の中で自己開示でき、しかも、年齢の近い学生達に賞賛されたことは、肯定的な自己像を認識する機会となった。

第Ⅱ期における支援のポイント

～学生が体験すること～

1. 修学状況を正確に把握する。
2. 自分のありがちな行動パターンや失敗の背景や要因に気づき、うまくいくための対処法を支援者と共に考え、実行する。
3. 必要な配慮に関して、納得した上で依頼することができる。
4. 自分自身の特性を認識する。
5. 肯定的な自己像をイメージできる。

Ⅲ期(大学3年後期～4年)

ゼミ・卒論

1. ゼミの選択
2. 指導教員との連携
 - ✓学生の特性説明
 - ✓指導上の困りごとへの対応
3. 卒業論文のサポート
 - ✓テーマに関する課題分析
 - ✓指導教員とのつながり方
4. ゼミでのコミュニケーションサポート
5. 定期面談
6. ストレスマネジメント

【連携先】

保護者・ハローワーク、地域発達支援センター、地域障害者職業センター、医療機関、学内(指導教員・学部教務・キャリアサポートセンター・保健管理センター)

就職活動

1. 就活全体のマネジメント
2. 職種・業界の整理・理解
3. 学生本人とのマッチング
4. 就労形態の検討
 - ✓一般就労
 - ✓障害者雇用枠での就労
 - ✓ハローワークとの連携
 - ✓企業への説明、つなぎ、面接同席
5. エントリーシート作成サポート
6. 応募手続き確認・履行サポート
7. 面接事前練習・事後振り返り
8. 就労移行支援事業所との連携
9. 内定後の定期面談
 - ✓会社適応・社会人としてのマナー
10. QOLに関する話し合い

事例:卒業研究に取り組むDさん

研究が始まった4月半ばのこと



指導教員

次回のゼミまでに1年間のスケジュールを作ってください



Dさん

約束の期日が過ぎても何も手がつけられていない状態

何をどうやって作ればよいのかさっぱりわからない

コミュニケーション自体に不安を持ち、交渉することが苦手

ナラティブ・アセスメント



Dさん

- スケジュールや時間の管理が苦手。
- やらなければならないという気持ちはあっても苦手意識があることに対してはなかなか取りかかれない。
- 教員に質問に行くことは抵抗がないが、何をどう質問すればよいのかもわからず足が遠のく。

- 多くの学生は一般的な説明だけで理解しているから、Dさんも「わかるだろう」と思い込んでいる。
- 約束の期日を過ぎてでもゼミにこないDさんに対して、「なぜ来ないのか」という不安や、「約束を守らない学生だ」という苛立ちを感じている。



指導教員

支援者の役割

支援者

Dさんに対して
研究内容に関しては、教員に直接アイデアをもらったほうが良いとアドバイスする

教員に対して
Dさんが何に困っているかを解説したいと伝える

支援者がDさんに同行して担当教員と会い、その場で状況を整理していく

- ◆ 担当教員とDさんとの間での意思疎通を図り、お互いの理解を深めることを体験的に学んでいく。
- ◆ Dさんにとって、困ったときの対処法を学ぶ機会となる。

Dさんと担当教員とのやりとり(1/2)

D: スケジュールなんですけど…

教: もう期日が過ぎてるね。

D: すみません。何を書けばいいのかわからない。

支: 約束はいつまでだったんでしょうか？

教: ○月△日まで。Dさん知ってるよね。

D: はい、でも、何を書けばいいかわからなくて。

教: いつまでに何をやるかという年間のスケジュールだよ。

支: スケジュールにはどのような項目を書くのか、教えていただけますか？

Dさんと担当教員とのやりとり(2/2)

教: Dさんは〇〇について調査するんですね。だとすると、まずは資料集めかなあ。

D: 次に調査の準備でしょうか。

教: そうそう、そういうことを書くんです。

D: それでいいんでしょうか。

教: そうです。形式はわかる？

D: エクセルと言われましたが、自分はエクセルに多少苦手意識があります。

支: 参考になるようなものはありますか？

教: 先輩のものを見せようか？

お互いに学んだこと

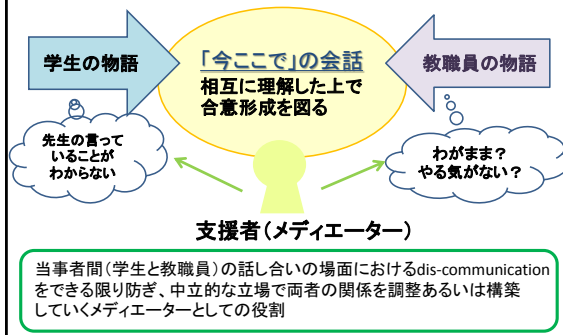
締切りを守れなかったDさんに対して、教員は当初多少の苛立ちを見せていた。

→ 支援者がDさんが困っている点を質問
教員とDさんのやりとりが成立し始めた

➢ Dさん…何をすればよいか分かり、見通しがついた。

➢ 教員…Dさんには具体的なイメージを示すことが大切だということを実感してもらうことができた。

メディエーターとしての支援者の役割(水野,2013)



支援スタイルの違い:これまでの就労支援の印象

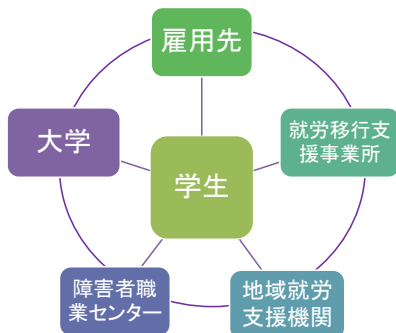
□ 修学支援の特徴

- ① 対話を通じた合理的配慮の探求
- ② 実行を支える支援
- ③ 未来を描き、不安を解消する支援
- ④ 強みを最大限発揮できる環境づくり
- ⑤ 弱みへの対処法を見つけていく
- ⑥ 学生・支援者双方に、大きな負担感がない支援スタイル

□ これまで体験した就労支援は・・・

- 弱みを克服することを求める移行支援が多い
- 学生(卒業生)は過去のネガティブな体験を想起
- 自尊感情が低下し、できていることもできなくなる
- 企業は、学生(卒業生)の強みを実感しないまま雇用することになる

強みを生かした支援スタイルの共有



参考資料

- 西村優紀美(2010)心理教育的アプローチ in 斎藤清二・西村優紀美・吉永崇史(2010)「発達障害大学生支援への挑戦—ナラティブ・アプローチとナレッジ・マネジメント」金剛出版
- 西村優紀美(2010)コミュニケーション教育法 in 斎藤清二・西村優紀美・吉永崇史(2010)「発達障害大学生支援への挑戦—ナラティブ・アプローチとナレッジ・マネジメント」金剛出版
- 斎藤清二・西村優紀美・吉永崇史・橋谷文智・水野薫(2012)「発達障害のある高校生のための大学進学ガイド—ナラティブ・アプローチによる実践と研究～」遠見書房
- 水野薫・斎藤清二・西村優紀美・橋谷文智・日下部貴史(2013)「発達障がい学生支援におけるメディエーションの意義と効果」一般社団法人日本LD学会ポスター発表
- 映像教材(2011)「発達障害の学生支援—富山大学の取り組みに学ぶ」中島映像教材出版
- 映像教材(2012)「富山大学における発達障害学生支援～学生支援センターアクセシビリティ・コミュニケーション支援室の取り組み～」

ご清聴ありがとうございました

